

# 九州朝陽会報

平成21年11月15日発行 第十号

「ねんりん」に  
夢を大志を青春を」

川邊 正行【2回生】

「大分OBサッカークラブ」の78歳、60歳の15人は九月四日朝、大分空港を出発した。羽田で乗り換えて札幌に向かう。第22回全国健康福祉祭（愛称「ねんりんピック」）北海道札幌大会2009のサッカーの大分県代表チームである。

「ねんりんピック」は、高齢者を中心とするスポーツ・文化・健康と福祉の総合的な祭典で、昭和63（一九八八）年以来毎年開催されている。

・今回の参加チームは、47都道府県と18政令指定都市の合計65

・参加者数は、合計八、五〇〇人（男五、八〇〇人、女二、七〇〇人）

・年齢は、平均68歳（男女とも68歳）最高齢は男94歳 女89歳

\* \* \*

九月五日午前11時、札幌ドームで常陸宮殿下同妃殿下の御臨席の下、総合開会式が始まった。ドームの内野席は選手や関係者で埋まり、外野席は格納されて壁が開き、その先にサッカー用天然芝のピッチが陽光を浴びている。



① 総合開会式の来賓挨拶で、皆さんが異口同音に「わが国は今や世界に類を見ない速さで少子高齢化の道をたどり、高齢者が夢と希望を持てる社会を……」と語っておられた。

② 総合開会式で客席を見渡すと元気な年寄りがあふれ返っていた。

アトラクションの後、選手入場、国旗等掲揚、主催者・来賓挨拶、宣誓等があり、よさこいソーラン節の踊りで閉幕となった。この間小学生が各チームに五、六人ずつ付き添ってくれた。

サッカー選手団はバスで札幌コンベンションセンターに移動し、サッカー交流大会の開始式を行った。

九月六、七日はいよいよサッカーの56チームが、3会場に分かれてゲームをする。4チームずつ14ブロックに分かれて総当たり戦を行う。その結果によって一位から四位の順位が付き、金・銀・銅のメダルを争う。

わが大分チームはFブロックで、和歌山県・仙台市・札幌Bと当たり、一勝二引分で銀メダルを貰った。

今回の『ねんりんピック』で印象に残ったこと……

① 総合開会式の来賓挨拶で、皆さんが異口同音に「わが国は今や世界に類を見ない速さで少子高齢化の道をたどり、高齢者が夢と希望を持てる社会を……」と語っておられた。

この人達の健康のノウハウを、これから年を取る予備軍の人達にどのように申し送るか……

③ ボランティア活動が徹底していた。総合開会式での小学生との交流や、各チームの行動引率、競技会場でミルクや海鮮スープなどの提供に、きめ細かなボランティアのサポートがあった。わがチームに張り付いてくれた女性は、ひとり大声を張り上げて、「がんばれ大分」と応援してくれた。熱中し前へ出過ぎて、ライオンズマンから注意されるほどだった。

私は今、大分市の「スポーツ振興審議会」のメンバーになっている。近く「大分市スポーツ振興基本計画」が完成する。この基本計画が各コミュニティに定着して、皆が百歳まで実り多い人生を送ってほしいと祈っている。

\* \* \*

## 「21年度九州朝陽会総会報告」

九州朝陽会21年度総会を、10月24日（土）に福岡天神の中華菜館「福新楼」で開催した。参加者は元長崎県知事の高田 勇大先輩（旧18）を筆頭に最若手の白井 康生氏（新47）、朝陽会本部から秋山 小南新事務局長が加わり18名。少人数ながら、二卓を囲み楽しいひとときであった。

会は岡本 稔氏（新14）の司会で、石井 幸孝会長（新3）の挨拶、小泉 純理幹事長（新7）の事務局年次報告（後記参照）があり、本部秋山幹事長から、スライドによる母校の現況、母校界隈の変遷などの詳しい説明があった。現在の母校が、古き良き昔の伝統を取り戻しつつある様子が感じ取られたのが、印象的であった。



半世紀前の初代校舎に育った我々に比べ、雲泥の差ともいえるべき恵まれた設備・環境に育まれる後輩達に、再び母校の名声を轟かせてくれるのを大いに期待したい。

一時間の総会後、記念写真を撮影。今回長崎から初参加の大先輩高田 勇氏が、戦時中の生徒たちの日常秘話を交えて乾杯の音頭をとってくださり、懇親会に入った。

二卓間を行き来しての世代を越えた交流と自由談話が進むうち、石井会長の現在すすめていられる「古代官道シンポジウム」の紹介を皮切りに、川辺先輩のねんりんピックでのご活躍など、有志会員それぞれのスピーチに、参加者一同が傾聴する

ひとときがあった。いずれにせよ旧制の高田先輩をはじめ、既に卒業以来半世紀以上を経た諸先輩の元気に多方面で活躍されている姿に、進行しつつある高齢化社会のあるべき姿を我々後輩は大いに示唆されたのではなからうか。

最後は秋山氏持参のカラオケ伴奏で「校歌」「健児の歌」を老若相唱和し、川辺先輩の閉会の辞で21年度総会も無事終了した。

その後、遠隔会員の高田、川辺両先輩以外の全員が森重夫会員（新10）のお店「コザック」に集まり、尚歓談の時が続いた。（土曜日の中州で、朝陽特別料金にて二次会の場を提供してくださった森会員には深謝いたします。）

最後に次年度総会につきまして、より多くの参加者を期待して、開催時期・場所・運営などについて幹事一同再考いたします。会員各位からの忌憚ないご意見やご要望、ご提案をお待ちしています。（幹事長記）

## 【発行元】

九州朝陽会事務局  
〒811-3221  
福津市若木台1-20-7  
TEL&FAX:0940-43-5545

## 【事務局長】

小泉純理(7回)  
E-Mail kjun612@nifty.com

## 【編者】

山下美智恵(29回)

## 連載「新宿」の思ひ出

### 第三回 「ああ 特別考査!!」上

朝陽同窓会顧問・九州朝陽会名誉会員  
昭和38〜62 国語科教師

佐藤 喜一〔昭24年卒 1回生〕

若い卒業生諸君には「それ何?」といわれそうだけれど、六中・新宿高校にはかつて「特別考査」なるものがあつた。中間・期末テストとは別に実施される進学のためのテストである。中学は四年と五年、高校では三年生が、年に何回か先生方の手になるオリジナル問題にチャレンジし、実力を確認しあつたのだつた。成績上位者は揭示される。常時貼り出される輩は得意そうに見えた。全く出ない者もいた。私などはたまに出て悦んだものだ。

「特考」は、私が母校に戻ってきた昭和38年にも続けられていた。コンピュータはなし、偏差値という物差しもない時代。「特考」は、まちがいはなく有効な進学資料だつた。

確か年五回。国・社・数・理・英の五教科。満点が500点。難問が多かつたせいか、五割も得点できればよし。教科の選択はできないので、理数系に弱いものは苦戦した。

19回生(昭和42年卒)を初めて担

任して、進学資料作成を依頼され、前学年の資料を譲り受けた。五回のテストの総平均点、現役合格大学名、一浪して合格した大学名などがクラス別に整理された一覧表。氏名以外はすべて先生方による手書きだつた。

これを参考にすると、たしかに合格可能性が診断できる。250点以上なら現役での東大合格率が高いとか、国立の二期校なら200点以上あれば可とか、理数が弱くても文系に強ければ、テスト科目に理数がない私立を狙えといったことが判然とする資料だつた。

予備校は現役生徒の通う所じゃなかつた。全国模試もなかつたわけではなかつた。新宿の先生方にはやはり、自分たちの生徒の進路指導はみずからの手で作成したデータで、というプライドがあつた。

放課後や休暇の際の補習もあつた。浪人のためには「補習科」というクラスもあつた。これらは、昭和41年度以降、都教委の通達によってなくなった。されど「特考」は続く。学校群制度の導入(昭和42年)後も続いた。

しかし、「特考」もなくなる日が来た。あの塩崎恭久君を中心とする新宿高校全共闘の六項目要求によってである。

## 事務局からのお知らせ

### ・会計報告

平成20年度会計は二、三一九円の繰越金を残して決算しました。

### ・会員動静

\*71名(10月24日総会開催時)

名誉会員1名、地域外会員2名

九州地域会員は68名。

\*入会者

佐藤喜一(1)、坂内英一(16)

### ・年会費納付について

昨年度納付は70名七三三八〇円。21年度年会費につきまして、総会参加者は当日会費より充当、不参加の方は同封の振替用紙でご納付ください。

ATMをご利用いただき、振替料金分の会費節約にご協力ください。

### ・新任幹事

会則により幹事再選の期にあたり、留任新任を含めて以下の役員で発足いたします。

会長:石井幸孝(3)

幹事長:小泉純理(7)

監査役:豊田信夫(7)

幹事:岡本稔(14) 小林牧(28)

山下美智恵(29) 白井康生(47)

### ・会報

会報発行は3、7、11月の年3回。広くみなさまの投稿をお願いします。佐藤先生の連載、次号もお楽しみに。

## 【以下次号】